

尼崎市総合計画審議会 第4回総会 議事録

日時	令和4年1月14日(金) 18:30~
開催手法	WEB会議
出席委員	青田委員、稲垣委員、梅谷委員、加藤委員、川中委員、花田委員、久委員、堀田委員、八木委員、川島委員、小坂委員、小森委員、堂園委員、松原委員、村田委員、勇委員、中西委員、仁保委員、畠中委員、原田委員、古川委員
欠席委員	瀧川委員、武本委員、室崎委員
事務局	稲村市長、吹野副市長、塚本総合政策局長、中川政策部長、田中総合計画担当課長、総合計画担当職員

1. 開会

●資料の確認

●議事録署名委員の指名

堀田委員、久委員

2. 第6次尼崎市総合計画 素案(案)について

(事務局)

<資料説明>

(会長)

専門部会での検討状況について部会長からお話いただければと思います。

(委員)

前回の総会から10月と12月に専門部会を開催させていただきました。まず10月では、計画全体の背景となる「社会潮流」、そして尼崎の現状について主に確認しました。それぞれの専門領域の先生方に関わっていただいているので、各専門分野の中から見た時の「社会潮流」がこれでいいのかという専門的なアドバイスをいただき、書き加えています。続いて12月では、素案のたたき台を通して見させていただいた中でのストーリー、繋がりを確認し、その中で「主要取組項目」が施策間連携では非常に重要になるので、そこを重点的に見させていただきました。その中でも特に「指標」がこれでいいのかというところをしっかりと意見交換させていただきました。先ほどの説明の中でも大きな変更点として、施策の各論部分で、キーワードの記載がなくなっています。確かにキーワードは端的に表現できているが、少し内容的に言葉だけではわからないという気がしていました。そこはしっかりと文章として書き加えることで内容的にもボリューム的にも読みやすくなったのではないかと思います。さらに全体的に西宮市や豊中市でも一緒の内容とならないよう、尼崎らしさを強調できているかという観点も出させていただきましたけども、パーフェクトではないかもしれませんが、かなり尼崎らしい表現ができているのではないかと思います。今回は専門部会の意見も踏まえて事務局で素案を用意していただいています。総会で様々な方々のご意見を賜りながら、より良いものにできたらというように期待しております。私からの報告は以上でございます。

(会長)

ありがとうございました。私も専門部会に参加していましたが、密度の濃い議論から今回の素案の案が事務局に巧みにまとめていただいたというのが私の印象です。ただ、これはあくまで専門部会での議論を核にしていますので、今日はぜひとも有識者、市民委員の皆さまから自由にご発言、コメント、ご指摘をいただければと思っていますのでどうぞ宜しくお願いします。

(委員)

「はじめに」のところから読ませていただいたのですが、総合計画をどう使っていかるところをすごく丁寧に書かれていて、普通の市民の方でも読み進めやすくなっていると思いました。その中で少し気になったところが、まちづくり構想 P14「(2)多様化するコミュニティの形態と地域におけるつながりの希薄化」の部分で、中段にある「オンラインによる様々な形態のコミュニティが生まれており、そのコミュニティにおいては分断が促進される可能性があります。」という部分を何度も読み返したのですが少し意味がわかりづらくて、何の分断が促進されるのかなと引っかかってしまいました。それともう1つ、「(3)脱炭素社会の実現に向けた機運の高まり」の「環境に配慮した行動が必要になります。」という書き方が、すでにレジ袋が有料化になるなど環境に配慮した行動が必要というのがスタンダードになっていると思うので、この記載では遅れている感じがします。未来に向けてというならば、プラスアルファのところから始める感じの方が良いのではないかなと思います。この文言はマイナスの方にいっているのではないかと受け取れました。

(会長)

確かに読んでいるとそんな感じがしますね。ご指摘ですので、事務局から簡単にご意見にお答えいただければと思いますがいかがでしょうか。

(事務局)

わかりづらい表現については、これから表現を修正してまいります。1点目のコミュニティの方では、オンライン等でつながり方が多様化しておりますので、考え方や感性が似た方が集まってしまうと、コミュニティごとの溝ができてしまうところを表現しておりますが、そのあたりがイメージできるように表現は工夫させていただきます。2点目の脱炭素につきましては、おっしゃるとおり「必要になります。」という表現をどのように変えられるかも含めて事務局で検討させていただき、よりわかりやすいよう、意に沿うよう検討したいと思います。

(会長)

たしかにネット社会の分断というのは、アメリカ社会での展開、文脈から議論されてきたと思うのですが、その辺りわかりやすく表現をお願いできればと思います。他に何かいかがでしょうか。

(委員)

良い感じにまとめていただいてすごく良いなと思います。全体的にイメージ画像の扱いについての意見ですが、内容は良いことを書いていますが、知らない人が見た時に最初に目がいくのは写真や見出しだと思います。そういう意味で、イメージ画像をより丁寧により効果的に使ってほしいと思います。例えば P33「主要取組項目② 生きがい・ささえあい」の部分で 100 歳体操のような高齢者の体操の写真は、高齢者を支えないといけない、生きがいを持ってほしいというところは伝わります

が、本文をみるともう少し若い世代から健康のことや、世代を超えた支えあいという広い意味での支えあいを書いているので、読み飛ばしてしまいそうな写真を使うのはもったいないと思います。また、各施策のところでは例えば P48「施策 5 地域福祉」の現状(成果)の写真で「民生児童委員と一緒に見守りを行う高校生」はまさにタイトル通り「地域福祉活動の担い手づくり」の具体的な取り組み事例として表現していると思うので、そういうことをやっているんだというところで良いと思います。一方で、下の「南北保健福祉センター」の写真が果たして必要なのか。その中でどういう事をしているのかということと、市民がどういうことをしてきたのかということが重要だと思うので、限られたスペースの中で、せつかく良いことを書いているので、もっと読みたいと思わせるような尼崎ならではの事例や素材がいっぱいあると思うので、ぜひ効果的にイメージを使っていいただければと思います。

(会長)

表現の仕方を含めて、限られたスペースをもっと有効に、きちっと説明をするべきだというお話しでした。この辺り事務局の方でぜひともご検討いただければと思います。

(委員)

P7に「SDGs×“ひと咲き まち咲き あまがさき”尼崎市＝『誰一人取り残さない社会の実現に向けて』』というのがあり、例えば市民の中で文章は読むのも嫌だという方でも、ここのところは、これが尼崎市の総合計画というのが一目でわかるような表現だと思っています。ですので、例えば“ひと咲き まち咲き あまがさき”の下に尼崎市と書いていますが、その中に総合計画という4文字を入れるとか、「誰一人取り残さない社会の実現に向けて」の上に総合計画を入れるなど、これが総合計画というのが分かるような表現にできないかなと思います。それと、今後“ひと咲き まち咲き あまがさき”が尼崎市のキャッチフレーズから、尼崎の総合計画なのですよというようなのがわかる様な仕掛けになる文章の配置ができないかなと思ったりします。この内容が P22 に書かれている内容となっており、P7と P22 の結びつきをうまく表せないかなと思っています。P22 の“ひと咲き まち咲き あまがさき”の内容を見ていただければ、市民の方の理解が深まる内容になるかと思っています。

(会長)

事務局もかなり苦労してこういうデザインになっていると思うのですが、今のご指摘も踏まえて、再度点検をしていただければと思います。

(委員)

ボリュームが多いのは仕方ないですが、これをどこまで読んでもらい、理解してもらうように努めていくのかというのが次のステップだと思います。具体的にはまちづくり構想の考え方の部分はおっしゃる通りで異論はありません。各論のところでは、成果があって課題があって、進捗を見ていくといった時のこの進捗を確認する指標が、迫力不足で、それで果たして課題の進捗が測れるのかどうか、どこを目標にするのかが少し見えにくい印象を受けました。例えば学校教育では、議論があるかもしれませんが、全国との平均と比較し平均点以上でいいのか。ファミリー世帯が転出傾向にあると思いますが、それは平均点以上であればファミリー層の転出を抑えていくようなことに繋がるのか。もう1つは地域福祉で、ファミリー世帯に転入してもらい、税源を涵養していく中で、税源をどこにどう使うかという観点で見た時に本市の一番の問題である生活保護の世帯の割合をどう減らしていくかという観点の「指標」でないと、総論を作り上げていくのに迫力不足ではないかと思いました。

(会長)

この指標は専門部会でも随分議論になり、非常に重要なご指摘をいただいたと思います。ご意見をいただいたこの2つの領域について、学識経験者の先生方がいかがでしょうか。

(委員)

P45「施策3 学校教育」の3施策の展開方向「(1)②科学的根拠にもとづく研究等の結果の分析による政策への反映や教員の指導力の向上」で科学的根拠に基づく研究結果の施策への反映が入っているということが大切だと思います。科学的根拠に基づく施策がなされることにより、指標にある全国平均以上の正答率になるという目標に近づいていくと思います。代表指標の2つ目「困難や課題に対し、周りの人と協力して解決に向けて取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合は科学的根拠に基づく点からするとこのような代表指標を出すというのは、施策の目標と繋がっている点で良いと思います。ただ全国学力・学習状況調査の成績はどこもよく「代表指標」に設定するのですが、2つ目の指標は尼崎らしい指標になっているのではないかなと思います。2点目の指標をとるために例えば施策の展開方向「(2) 個に寄り添った教育の推進」の展開との兼ね合いも出てくるので代表指標を示すにあたって施策の展開方向との説明や注釈もあってもいいかなと思います。

(委員)

地域福祉の「代表指標」ですが、専門部会でもかなり議論してきました。1つの考え方として、これは中心的な考え方になると思いますが、地域福祉の「1施策目標」で「互いに尊重し、つながりさえあい、安全・安心に“ともにいきる”まちをめざします」となっています。それを測るための指標として「困りごとを抱える人を「ほっとかない」と回答した市民の割合」と「支援において「スムーズに連携できている」と回答した支援関係者等の割合」を指標として設定しており、生活保護の割合、自立支援という視点で考えた場合、それもひとつ重要なことになってくるかとは思いますが、やはりこの施策の目標に即したより適切な代表指標ということでこの2つを設定しています。

(会長)

大変重要なところをご指摘いただいたと思いますので、専門部会の領域の近い方からご発言をいただきました。委員ご指摘のとおり迫力のある指標の設定は難しく、今ご説明のあったようなところで位置付けていますので、また何か具体的なご意見がございましたら事務局に言っていたら、事務局も再点検するといえますか、考えていただきたいと思います。

(委員)

市民が尼崎の課題と思っている点が今の2つかなと思ったので、検討いただければと思います。

(委員)

素案を見ていて思った点は、アイデアレベルになりますが、P9の「総合計画の構成」がすごく見えてわかりやすいと思いました。総合計画がどういうもので、どのように成り立っているかということがとてもわかりやすいと思ったので、例えば、P11にこのイラストを入れて、今からこの部分の説明をするよというような文言が入れば、すごくわかりやすいと思います。この三角形は色々なところでデザイン的に出てくると統一感があり、今どの部分を話しているというのが見えてわかりやすいかなと思います。できれば表紙の部分にも総合計画というのは何かということの説明をいただけ

れば、見ている側からするとわかりやすいのかなと思います。もう1つ、P44、45の数値の結果ですが、現状がこうで令和9年にはこういう目標で進めますよということですが、市民が読んでいて数字で表現されるととてもわかりやすいので、例えば令和5年は何%になって、こういう風に改善していきますということが出てくるととてもわかりやすいと思いました。例えばこの数値の部分だけでもまとめたページが尼崎市のホームページにあってそこが変化し、変化するにあたってこういう風にアンケートをとって回収してこれだけの人が良いと感じているよみたいなものが誰でも見れるようになれば意識しやすくなるのかなと思いました。数値が変わっているよというのだけでも毎年1枚の紙にして全戸に配り、詳しくは総合計画のページに誘導するなど、もっとたくさんこの数値が浸透していけばわかりやすいものになるのかなと思いました。

(会長)

たしかにP9の三角形は全体像を示しているのので、随所にこの三角形が顔を出して示してもらおうというのはわかりやすいと思います。トップページにもこれを置いたらどうかというのが、この辺り全体のデザインにも関わってきますので事務局でもご検討いただければと思います。それから指標についてまとめてわかりやすく整理してはどうかというご提案ですが、この辺り事務局の方からお考えありましたらコメントいただければと思いますがいかがでしょうか。

(事務局)

指標は、毎年、施策の振り返りとして施策評価を実施し、過去の経緯も含めて各指標の推移を公表しています。各施策の指標がたくさんあるので、市民向けの広報としては「まちの通信簿」で「総合指標」と「主要取組」の指標をピックアップしたものを毎年発行して周知をしている状況です。

(会長)

指標の取扱いについては、この計画をわかりやすく、使いこなしていくうえで重要な部分だと思いますので色々なアイデアを事務局にお寄せいただければと思います。

(委員)

大変良く出来ていると思いました。専門部会が開催される際に、事務局に市民委員も入れるようお伝えしましたが、市民部会はできあがったものを市民にわかりやすく周知していく段階でお願いしますとの回答がありました。今回、素案ができたということで、オーケストラで例えるとスコアができたのではないかなと思います。スコアができた中でどこを強調し、ベースの音や旋律をどうするのかというところはこれからだと思うので、そういう点では網羅的にすべて表現されていると思いました。ただ、見せ方の話ですが、例えば下線やハイライトの引き方、それから例えばP22の“ひと咲き まち咲き あまがさき”のところですが、単色の白抜きだと強調が薄れます。だから濃い色の上に白抜きだと強調されるとかデザイン性の統一、トーンを揃えて、市民が下線、ハイライトの部分を読んでわかる構成にしてはどうかという気がします。それとP22、23、24、25が1番肝の部分ですが、「ありがたいまちとまちづくりの進め方」、「まちづくりの方向性」が似たような言葉になっており、「進め方」と「方向性」で両方とも前を向いて行こうという話でしょうが、P24、25は果たして必要なのか、尼崎の地図とどう関連してくるのが個人的に引っかかりました。各論は事務局に任せるので、市民としてはそれをどう強調していくか、総合計画という音を奏でてみんなが楽しんでダンスを踊るというように、どうしていったらいいかを考えたいと思うので、基本的には大変オツケーだと思います。

(会長)

P22～25の「ありたいまちとまちづくりの進め方」、「まちづくりの方向性」のつながりがもう一つイメージしにくいというご指摘ですので、事務局から簡単をお願いします。

(事務局)

見やすさ、デザインは来年度考えていきたいと思いますが、P22、23の目指す姿、進め方については私たちが大切にしたいルールという部分で、そのルールに沿った形で尼崎市全体を盛り上げていくというのがP24、25の全体に通るような考え方になっています。タイトルとしてわかりにくいというご指摘ですが、それぞれの項目自体は必要な要素であると考えております。

(委員)

順番として「方向性」があって、次に「進め方」がいいのではないかと思います。

(委員)

全体の表現については何も文句ございません。産業と労働環境の辺りを申し上げます。P15ですが「(5)産業構造・労働環境の変化」のところでコロナのことを書かれていて、「感染拡大を防止するために、ICTを活用したテレワークなど、時間や場所を問わず柔軟な働き方が可能となるなど、労働環境は劇的に変化しています。」と記載があり、一般的にはそれであっていると思いますが、尼崎の場合は製造業が多いことから、あまり劇的に変化はしていないのではないかと。工場の生産労働はテレワークでできませんので、全国的に労働環境が変化している中で尼崎の主幹産業が取り残されているはずなので、あまり劇的に変化していると捉えてほしくないということが1つあります。それを受けて、P61「施策11 地域経済・雇用就労」の「代表指標」として「イノベーションに向けて新たな事業にチャレンジする人や事業所数」を増やしていきたいとか起業に向けてというところは素晴らしいことだと思います。一方で、「尼崎市内有効求人倍率が全国有効求人倍率を上回る」と記載がありますが、おそらく大体上回っています。3K、4K、5K 職場が比較的多いのが尼崎の特に製造業に対する産業構造の実態かなというところで言うと、求人はしているが、あまり人が来ないっていうことの悩みを抱えておられる事業者が沢山あると思うので、そういう意味で「有効求人倍率を上回る」というのは普通に上回り、指標にならないのではないかと思います。有効なデータに基づいたものではないので、なんとも言えませんが、感想としてそのように感じました。どこを修正してほしいとかはないのですが、表現の中に織り込んでいただけたらありがたいと感じました。

(会長)

経済産業に関わっている立場として私も意見を申し上げましたが、P15の労働環境は尼崎の場合、実は劇的に変化していないという尼崎の個性、特性を踏まえた表現にすべきというご指摘だったと思います。ただ、ここはおそらく一般的な状況について記載されており、尼崎の特徴をよりの確にという点で大変重要なご指摘だと思いますので、事務局もご検討いただければと思います。P61の経済の指標については、たくさん議論してきました。「有効求人倍率」は一般論で言うと、地域経済を示す最も重要で、取りやすい指標でもあり、「有効求人倍率」はどうだろうかと言った記憶があるので私の責任も免れないのですが、事務局で指標の精査をお願いできればと思います。

(委員)

「有効求人倍率」を指標としてもいいかと思いますが、「全国を上回る」という目標が簡単ではないかと思い、お考えいただけたらという程度なので、指標を変えてほしいということではありません。

(会長)

尼崎の特性を的確に示す指標は何なのかというのはどうしても地域や産業とかやっていると、すっぱり抜け落ちて考えてしまいますので、この辺りは再考すべきところだと思います。

(委員)

他都市ではよく総合計画はコンサルに丸投げして、データをいじるだけで仕上げるような、スマートですけど手作り感がないものが多い気がします。そういう意味では、思いや考え方が随所に入っており、手作り感たっぷりでみなさんのご意見を吸収した計画になっていると思います。ただ、論理構成が従来のもので違いましたし、それが本日、各委員が指摘された意見と重なる部分だと思いました。例えば「社会潮流」は、「人口減少社会の進行」から7つあり、この「社会潮流」を受けて本市の状況に来るのかなと思えば、社会潮流の中ですでに本市の状況についての記載があります。そして、本市の状況はというと今度は「人口」と「土地利用」という限定された内容になっており、次は「ありたいまち」ということで”ひと咲き まち咲き あまがさき”のこと。そしてさらには、「まちづくりの方向性」ということで、こうありたい、ああしたいというプラス面を入れていこうというアプローチになっています。各ページにこうしたいが入っており、論理の整合性や連続性、順序性という部分で積み上げが無く、あちこちにメインディッシュがあるというような計画になったと感じています。だから何人かがご指摘されたように、「ありたいまち」と「まちづくりの進め方」、「方向性」で、順番や重なりなどの問題、あるいは、生活保護の問題、生活困窮、格差社会について、別の観点からいえばハザードマップのようなマイナス面からスタートしてそれをどう克服するかというアプローチを今回取らなかったのが、生活保護などの部分が欠けていると感じます。委員が指摘されていましたが、自立支援という意味では地域福祉に入るかもしれませんが、生活保護は地域福祉には従来馴染まない項目です。生活保護は所得保障であり、基本的には国の政策ですが、本市でも生活困窮者自立支援ということで、地域福祉に入れた方がいいと申し上げました。ただ、本来は「所得保障」や「格差是正」を、ひとつの大きな施策として取り入れるべきだったのかと個人的に思います。先ほど申し上げたように、今回のアプローチが、ネガティブというかマイナス面をどういう風に克服していくかというよりもプラス面をどう増やしていくかというある種の限界でもあったということだと思います。繰り返しになりますが、メリハリ、順序性、筋立て、論理の構築というところで、あちこちに盛りすぎだと感じます。しかし、委員の意見があったので盛っていくのが当たり前なので皆さんの意見を反映したらどうしてもメリハリとかメインディッシュがあちこちに散在しているというのもこれはこれである種尼崎らしい盛り方であり、そういう意味では決して皮肉ではなくてユニークな総合計画になったと思います。

(会長)

「社会潮流」のところは一般論でこういう表現だと申し上げましたが、一方で同時に尼崎の状況も入れておく必要があると改めて皆様のご指摘をお聞きしながら思いました。そのあたりどういうように簡潔に書ききるかは事務局にお任せします。委員ご指摘のように、違和感があるのはまずいと思うので、全体の論理構成を気にしながら再度点検していくということをお願いします。

(委員)

素案を読む中で一番思ったのはこういうものは作るだけで終わってしまっ使用できないというようなものが出来がちですが、そういった意味でも色々盛り込んで文字的にも文章的にもわかりやすくお作りになっていてご苦労がよくわかるものだと思います。女性というのは非常に弱い立場という風に見られがちで、「主要取組項目② 生きがい・ささえあい」のところで「重層的支援の推進や障害のある人、高齢者、外国籍住民、女性など」ということで、ここで改めて「女性」という表現が入っていますが、女性は就職面でも弱い面もありますが、こういうところで「女性」という表現を入れるということに、抵抗を感じました。また、ブランディングというような言葉が新しく入っており、こういうことも進めていかれるということで総体的に本当に色々なことが盛り込まれていると感じました。ただ、どこがポイントだということがもう少しわかりやすくまとめてわかりやすい形にされたらいいのではないかなと思いました。総花的な評価ですがそういう風に思いました。

(会長)

総合計画はまさしく総花ですので、ありとあらゆることが記載されていなければならないという宿命があり、そういう意味では色々な言葉が並んでいるのは総合計画の1つの特徴だと思います。中でも女性の書きぶりが気になるというご指摘でしたので再考、再点検をお願いしたいと思います。

(委員)

これまでも色々ご意見も言わせていただいていますので内容的には非常に満足しています。「現状と課題」の部分でこれまで表現を省略し過ぎているのかなという部分を感じたところもあったのですが、必要なところはしっかり文章で書き込まれていましたのでこの部分については非常に理解しやすくなったというところで、特に内容のところでは課題というのは触れさせていただくことはございません。些末なところですが、「まちづくり基本計画」での漢字とひらがなの使い方が気になります。例えば「めざす」や「ささえ」という漢字で書いても簡単なものをあえてひらがなにされているのが何か特別な想いがあるのかお伺いできればということと、例えば P52 の施策目標のところ「ささえあい」というところは漢字を使われて「支え合い」になっている一方で、P48 の「つながりささえあい」のところでは「ささえあい」はひらがなで全てを書かれていたり、あえて使い分けをされているのか、表現がそろっていないのには意図があるのか教えていただければと思います。あまりひらがなばかりが続くと読みにくいなということが印象としてあります。

(事務局)

表記揺れはチェックをかけているつもりですが、まだ残っており、きっちり修正させていただきます。基本的には一定の考え方のもと統一できればと考えておりますが、特に構想部分はひらがなを使い、やわらかい表現を意識していますので、そういった部分はこだわりを持ちつつ、基本計画部分は他の計画との整合性も含めて計画全体での統一というのを図ってまいりたいと考えています。

(委員)

まずは P15 の「(5)産業構造・労働環境の変化」のところですが、先ほど「ものづくり産業」は求人をかけても人が来ないというお話も出ていましたが、私も民間の企業、ものづくり産業の職場におりますのでまさしくそういうことを実感として感じておりましたので、是非そのあたりの対応ということで、ここに「市民の雇用と事業者をささえる取組を進めていきます。」とありますので、積極的に企業

側の意見も聞きながら進めていただけたらと思いました。計画としては全体的に非常に良くまとまっているという印象でありがたいなと思っていますけども、1点気になったところが表現の仕方なんですけど、P18で「実態とイメージのギャップの解消へ」の太字、下線のところ「本市の取組や実態が市民の実感につながっていないことによるものもあります。」ということで、ここだけ自己否定で言っているなと思いました。これまで尼崎市は市民と一体となり、様々なチャレンジをしながらまちづくりを進めてきたと思いますが、こういう書き方をされると、読み手によっては我々の意見は反映されていなかったという想像をしてしまう部分もあるので、書き方をやわらかくするか、一例を挙げていただければ読み手としては非常にわかりやすいと思いました。

(会長)

この「実態とイメージ」が乖離しているという表現が読んでわかりにくいとそういうご感想ですか。

(委員)

色んな誤解をして読んでしまう方もいるのかなと思いました。例えば「市民の実感につながっていないことによるものもあります。」なので、市民の声も聞かずに失敗したのかなという取り方もできますし、「ことによるものもあります。」というので「こと」というのはどういう「こと」なんだということで、読み手としては非常に疑問を感じます。なので「こと」のところを例えばこういう事があったという例をいれていただくか、表現を優しくしていただいた方が誤解を生まなくていいのかなと思いました。

(会長)

この辺りは総合計画の非常に重要なところでもありますので、事務局としては丁寧にわかりやすく書きぶりを再考していただければと思います。中身そのものは委員もオッケーだと思っていると思いますので読んでわかりやすい感じにいただければと思います。

(委員)

2点ほどお話しさせていただきます。まず1点目は、この計画はできるだけ多くの人々に見ていただくことが重要になってくると思うので、総合計画の本編を読みたいと思うような気持ちにさせる計画のビジュアル版というか簡易版を作成し、多くの人が見て本編に入り込んでいただけるような仕組みができたらいいのかなと思います。もし予定されているのであれば、皆さんのご意見をいただきながら作成するのがいいかなと感じました。もう1点ですが、P74「計画の推進」の部分で、これだけのものを作ってこうしていくと示しているのにPDCAのところは1ページで終わっていて、その取り組んだ状況を市民の皆さんが成果として実感していただけるよう、「まちの通信簿」をどういう形で表現しているかということもお示しするなど、計画の推進についてはもう少し皆さんに分かるように表現されてページも使った方がいいのかなと感じました。

(会長)

作って終わりじゃないというのは冒頭で宣言しているので、今のご指摘は非常に重要だと思います。量ではないですが、確かに1ページで終わりというのも少し寂しい気がします。この辺りまたご指摘を踏まえて事務局でお考えいただければと思います。

(委員)

2点申し上げます。P34の「主要取組項目③ 脱炭素・経済活性」という「脱炭素」と「経済活性」を一緒に掲げたところがすごく重要なポイントかなと思います。短期的に見るとコストですが、長期的に見るとそれが地域の活性化につながるというようなことがたくさんあると思いますので、一緒に掲げたところがすごく大きいと思いました。そこで、「地域経済の活性化」の1行目ですが、「経済成長と二酸化炭素排出量抑制のデカップリング(両立)」と記載がありますが、デカップリングにすると「経済成長と二酸化炭素排出量抑制」を切り離すよということになるので、表現を改める必要があります。次に2点目が例えばP36「5.施策体系」でまず「施策1 地域コミュニティ・学び」を1番に掲げて下さったというのも素晴らしいことだと思います。今回、13施策を掲げていただいています。施策の横軸を刺すというように、さらにもう1歩進んで複数の施策を一緒に考える、逆に言うと施策を進める際に、全体を考えながら進めることが非常に大切だと思います。SDGsがそうだと思いますが、1つのことをやった時に1つに留まらず、色んなところに影響があります。例えば、「脱炭素」でいうと、施策5、9、10、11、12、13で関わってきますので、それぞれの施策を掲げていますが、これを推進、実行するときに視野の狭い考え方ではなくてこれを1つやることで2つも3つも良い事があるという感じで進めていただけたらありがたいなと思っております。

(会長)

最初にご指摘にあった34ページのところは経済成長と環境のクオリティのアップはトレードオフと言われていますが、ここをなんとか上手くパッケージ化して展開してはどうかというのが意図だと思うので、ご指摘のような誤解の生む表現を慎重に検討していただいて読んでわかりやすい表現に変えていただければと思います。2点目も非常に重要なポイントで、尼崎の総合計画はご指摘のようにマトリックスの施策体系で進めてきている経緯もありますので、これまでの蓄積も踏まえてここも表現していただいた方がいいような気がします。事務局はいかがでしょう。

(事務局)

施策間の連携については重視している部分で、P28の基本計画の最初の部分ですが、「2分野ごとの力を最大化し、その連携を意識したまちづくり」ということで、委員ご指摘のところについては各論でそれぞれの専門性を高めていくことが重要ですが、施策に広がりを持ってつなげていくということが非常に重要だと考えております。それを意識できるよう、P32からの「主要取組項目」の部分では専門部会からもご意見をいただきましたが、連携を意識できるよう歯車のイメージの見える化をしており、そういったところは市として連携を意識しながら進めていきたいと考えております。

(委員)

今のご説明の「連携」ということで、P28で「施策間連携サミット」がSDGsを進めていく上で、本当に大きな推進力になると思うので、是非これによってどんどん施策の効果が広がっていくといいなと思います。

(会長)

事務局から説明があったように「主要取組項目」のところで歯車が並んでいるものがまさしく連携を象徴しています。こういうイメージがわかりやすいのではないかと思います。

(委員)

私自身も大きな異論があるということではなくて他の方がおっしゃるように色々な意見とか総花という言葉があるように、網羅的に色々なものを入れ込んでいるということだと思いますのでデザインの見やすさも含めて良いものに仕上がったと思っています。細かいところは色々なご意見もあったので、あえて違う視点から申し上げたいのですが、他の委員さんもおっしゃっていたように、これはゴールではなくスタートであり、これでどのようにまちを変えていくか、望む方向にもっていくかが大事であることから、今一度市役所の方々がこの総合計画の中で自分たちはどこに注目して、実際どういう施策をやっていくのかを議論するようなこともやってみてはどうかと思います。この中身だけ見るのではなく、使っていく時のイメージとかそれを施策にどう落とし込んでいくのかということブレインストーミングすることによって見えてくることもあると思います。もう1点、代表指標がとても気になるところで、今のこのやり方に異論を唱えるものではないですが、代表指標はこれだけで何かを測れるものではないので、たぶん「代表」という言葉が付けられていると思います。その意味で他の指標でとれるものもありますし、また指標では取り切れないものがあったりすると思いますし、目標値に向けて大幅に数値が上昇したらそれが本当に目指す方向につながっているのかというのは結構難しいと思います。この評価の仕方は、行政がつくるものなので目標値が必要なのは十分自覚していますが、こういうものの取り扱いは数字を達成するためではなく、望むべき状態に進んでいるということを示すものなので、市民の方々に説明される時や今後使っていく時に極端な言い方すると指標が合っていないなら変えてもいいと思います。施策目標を達成するのにこの指標ではないと思ったら指標そのものを見直すことも含めて盛り込んでいくべきだと思います。

(委員)

私は自然災害とか危機管理が専門ですので、P16の社会潮流で災害対策とかコロナウイルスなどを入れていただいて大変良かったなと思っています。例えば東日本大震災の被災地のような甚大な災害を経験したところであれば、こういう項目を入れるのは抵抗ありませんが、災害を経験してない未災自治体は、ここまで書かないことが多い中でよく入れていただいたなと思っています。「課題解決先進都市尼崎」にふさわしいと感じています。「安全・安心」を感じるときに、決して暗いイメージで捉えてほしくないなという風に思っています。大事なのはそこから立ち上がる力、レジリエンスが大事だということなので、後ろ向きではなく、これを乗り越えて頑張っていこうということで市民が連携して自助共助公助の力で乗り越えていくということで社会潮流を捉えていただければありがたいなと思っています。また、P33「主要取組項目② 生きがい・ささえあい」の指標「安全で安心して暮らせるまちだと感じる市民の割合」で、ここは自助共助もちろん、公助の役割が大きいと思っています。特に尼崎市の特性は地盤が沈下しており、ひとたび大きな水害が起こると自助共助の力だけでは厳しいというところがありますので、公助の力も地域共生社会にいられていただいています。公助も含めてだと思っていますのでこの点もぜひ意識していただけるとありがたいと思いました。また、P59「施策 10 消防・防災」の指標が他の施策に比べると高い数字になっています。地域防災力を考えるとコミュニティの共助というか互助の力を「指標」で測れたらいいかなと思いますが、現時点で測れる数字が無いと感じています。この辺りまた柔軟に考えていただくこともあればいいかなと思いました。

(委員)

今回は前期の5年間のものが出来たということで社会の変化が非常に激しいことから、10年間

ではなく 5 年間を目標にして良かったと思っています。私の関わっている健康のところでは、今、保健所は大変な時期ですけども皆さん本当に頑張って市民のため、尼崎のために役立っておられると思います。指標に関しても健康の分野はこれで良かったかなと思っています。

(委員)

2 つだけ短く申し上げておきたいと思います。P33 のところで「地域共生社会の実現に向けた環境づくり」のところで、地域福祉の観点と市民の地域参加の観点と 2 つが表現されています。公正公平な社会や生きやすい社会を実現するために書かれているような取組を進めるということが大事ですが、ここでは地域福祉的な話を書いてあります。それ以外にもそうした社会の実現のための問題解決、その市民参加を推進するということが大事ですが、それに加えて価値を創造・創出していくような形での市民参加や多様な主体の協働を進めていくことも能動的市民性が発露されていく先の受け口となる項目としては必要かと思いました。また、主要取組項目はこれから 5 年間にわたり、さまざまなインスピレーションが沸くような表現があった方が良いと思いますが、P35 で「学びの推進によるシチズンシップの向上」とありますが、学習拠点の中での学びやその中での気づきが記載されていますが、私たちは、学習拠点以外での学習といわない学習といいますか生活の中で気付けば学んでいたりとか変容してたりとかがあるわけで、そうした生活の中での学習とか変容みたいなものもこれから進んでいくといいなと思います。尼崎で生活をしていると社会や地域についての関心が高まったり学びが進んだり、私も何かやってみようみたいな能動的な市民性が涵養されていくような、どこかに行って学ぶというだけではない形のシチズンシップの向上というようなことも今後一緒に考えていければいいと思いますし、「みんなの尼崎大学」も次のステージというのは、そういう方向性を考えていくことになるのではと個人的に思いますので、その辺もご検討いただければと思います。

(委員)

委員の学力テストの成績で進捗を測っているのかという話を聞いて、生き方が多様化してくる中で、私たちが総合計画で支えていこうとしている市民のライフスタイルとは何かということをもう一度考えながら全体像を位置付けていって過不足を確認してはどうかということを変更して思いました。今まで何十年間かはペーパーテストでいい成績をとってサラリーマンになって出世をすることが一本道みたいな感じの時代が続いてきましたが、特に尼崎は元々職人のまちなので、まちの中に多様な生き方や働き方が組み込まれているはずで、それを子どもたちの教育にどのように反映させていくかが委員の話から見えてくるのではないかなと思いますので、子どもの教育だけではなく、まさしく尼崎のライフスタイルの多様性のようなものをいかに色々な形で支えていけるのかを改めて認識しながら最終確認をかけてはどうかと思いますし、次のステップとして市民の方に分かっていたくような概要版を出す時に、皆さんのライフスタイルを支えるためにそれぞれの施策があるというようなそんなパンフレットもできたらいいなと思いました。尼崎スタイル、生き方のようなものをいかにビジュアルに具体的に示していけるかというものが勝負かなと思います。徳島県が若手職員を中心に「vs 東京」という映像を出していて、その中に「徳島が東京の価値観を変える」というキャッチフレーズが出てきます。まさしく今まで東京に近づこうとしてきた地方都市が、東京にはない価値観というのを徳島から作っていくというメッセージが込められているのでそういう意味では大げさに言うと世界を先導する価値観とか生き方みたいなものを尼崎から作っていくというようなそんなメッセージが出れば面白いなと思いました。ただそれをどういう形で測るのかというとなかなか量的には測れなくて、質的な評価というものが重要で、先ほどからご指摘いただいているような数量だけで追いか

けていくというのは今後 PDCA を回すときは注意しないといけないのかなと思いました。今日市長が来られていますので、市長にもメッセージを出しておきたいと思いますが、具体的には P70 のデジタルトランスフォーメーションの話ですが、ここでは方向性が 2 行で書かれています、これを見せていただいたときにこれはトランスフォーメーションになってないという話をさせてもらいましたが、5 年間だからここまで行くのが関の山かなということで私も妥協しています。しかし、次のトランスフォーメーションに向けてそろそろ考え始めるということが必要かなと思っているので、そういうところも 5 年間でトランスフォームというのはなかなか難しいと思いますが、トランスフォームをめがけた第 1 歩を記すというのが、この 2 行ではなかなか表せないとは思いますが、そこら辺はそろそろ動き出してほしいと思いますし私も一緒に考えさせていただけたらというような想いがございます。

(会長)

私も 1 点だけ申し上げますとこの総合計画の議論が始まった時はやはり尼崎はかなり課題が多いという感じがしましたが、これは市長の力もあります。随分大きく変わってきたと思います。それと同時に社会経済状況が大きく変わり、良い場合は別として、京阪神を中心とした大都市圏構造が大阪一極集中の方向に変わり始めてその中で尼崎の地位、ポテンシャルというのが一気に高まりつつあります。最近、不動産関係者と話をしても、これまでとは全く違う尼崎の姿がまだまだ水面上には出てないけども、浮き上がり始めたという印象を持っています。そういう意味では総合計画ができたところで新しい尼崎の顔が出始めると非常に面白いなと、市民の皆様にもこういう総合計画が受け入れられるのではないかなという気がしています。先ほど、委員がおっしゃっていたようにマイナスのところを解消しつつ次のステップへというのはもちろん重要なポイントですけども、もう一つは総合計画が市民の皆様が手に取ってワクワクするような尼崎の将来の姿を描いているというようなことも同時に重要だと思えます。また、実際の状況もそうなりつつあると感じておりますので、その辺りはまた最終のところでご意見を賜れればと思っています。今日いただいた貴重なご意見につきましては時間の制約もありますので、私の方で事務局と調整してこの案の中に反映する形で納めさせていただくという事にさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。(一同、異議なし。) それでは、その他の案件に移りたいと思いますので、事務局から宜しく申し上げます。

3. その他

【資料第 2 号】第 6 次尼崎市総合計画策定に向けたスケジュール等について

(事務局)

<資料説明>

本日、稲村市長が出席しておりますので、これまでの審議、素案の策定につきまして市長からご挨拶をさせていただきます。

(稲村市長)

皆さん今日も活発なご議論をいただきまして本当にありがとうございます。これからまさにパブリックコメントもいただき、構想の部分と基本計画については、議会の議決をいただくことになっておりますので、また議会からも意見をいただき仕上げてまいります。まだまだこれで固まって終わりという事ではありませんので、引き続き皆様には最後の最後までご意見をいただけたらなと思っております。また、デザインはこれからまた専門家に仕上げをお願いするという事にしておりますので、色使いや写真、見やすさ等々はプロの力を最後はお借りしたいと思っております。それと「指標」です

ね。これはどこまで行っても悩ましいですけども、今の 10 年間の計画もやはり指標は柔軟に修正をしながら評価を進めてまいりました。それは今後もそのような形でしたいと思っておりますが、「施策評価」ではもっとたくさんの「指標」を設定しています。特に学力の指標もかなり議論をしまして、補完的に指標を追いかけないとなかなか表現がきれいなところがありますので、「施策評価」ではもう少し立体的な評価をしていきたいと思っております。最終的にそれを通信簿のような形で市民の方に広く話すときには、ストーリー立てて、簡易にまとめて伝えるような工夫をする余地もあると思っております。やはり市民の方に興味を持ってもらえるようなコンパクトな発信という事も意識して進めていきたいと思っております。また、デザインの仕上げと合わせて、論理構成上の順番や表現の仕方をもう一息工夫できるんじゃないかというご意見もいただきました。そうした点も踏まえ、極力みなさんの意見を反映させて仕上げたいと思っております。それと、色々な尼崎のエピソードを市民の皆さんや事業所の皆さんと具体事例として共有していくという事が必要ではないかなと思っております。これから実際にスタートしていった時の PDCA は行政が議会に提出する資料だけではなく、そういったエピソード集、白書のようなものを作っていくということも少し想定をしております。総合計画審議会は、常設とさせていただいておりますので、皆さんには引き続き関わっていただき、お力添えをいただければ幸いです。どうぞ宜しくお願いします。ありがとうございました。

(会長)

これで第 4 回総会を終了させていただきます。改めまして専門部会の先生方は貴重な議論を蓄積していただきましてありがとうございました。また有識者、市民委員の皆さま大変真摯な的確なご発言をいただきましてありがとうございます。パブリックコメントに出すものにつきましてはできる限り皆様の意見を反映させる形で事務局と調整させていただきたいと思っております。次回は 3 月中旬から下旬に、市議会、市民の皆様の意見を反映させた形で提示するということになるようです。引き続きご協力お願いしたいと思います。そうしましたら第 4 回総会を閉会とさせていただきます。

以上